



CLINICAL PATH NEWS

Japanese Society for Clinical Pathway
日本クリニカルパス学会

No.
27

発行日
2012年3月9日

in 東京

第12回日本クリニカルパス学会 学術集会

2011.12.9～10

聖路加国際病院 医療情報センター / 消化器・一般外科
嶋田 元

2011年12月9日～10日の2日間、東京、新宿の京王プラザホテルにて第12回日本クリニカルパス学会学術集会を開催させていただきました。多くの学会員の方々、ならびに協賛各社のご協力もあり盛会裏に終了することができました。

クリニカルパスが合理的かつ質の高い医療の提供を可能にしたのは、職種を越えたチーム医療の強化に拠るところが大きく、今後、チーム医療が医療の標準化の推進に与える影響はますます大きくなると考えられます。そこで本学術集会のテーマを「これからのチーム医療」とし、両日で2,500名を超える様々な職種の方々にご参加をいただきました。



日野原重明 先生

特別講演3題、教育講演2題、シンポジウム4題、パネルディスカッション2題、教育セミナー、論文の書き方セミナー、フリーディスカッションならびに



一般演題359演題と厳選した演題数で開催させていただき、各会場とも充実した講演が行われ、互いの研究について職種を超えて議論を深め、日本の医療の質向上について考える学術集会になったと思っております。



嶋田元 先生

会場によっては慢性的な座席数の不足やエレベーターに長蛇の列ができてしまったなど至らぬ点が多々ありましたことをこの場を借りて深くお詫び申し上げます。

第13回日本クリニカルパス学会学術集会は2012年12月7日(金)～8日(土)に岡山コンベンションセンター/岡山市デジタルミュージアムで開催されます。岡山で皆様とお会いできることを楽しみにしております。今後とも変わらぬご指導ご鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。



in 東京

日本クリニカルパス学会 第12回 学術集会賞 最優秀賞によせて

2011.12.9～10

熊本機能病院 循環器内科 前高圭子

去る12月に東京（新宿）、京王プラザホテルで開催された第12回日本クリニカルパス学会学術集会で、当院の「心不全パス改訂の効用～運用面の改善点・観察項目の簡素化～」のポスターが第12回学術集会賞最優秀賞を受賞させていただきました。関係者を代表して私が受賞による感想を書かせていただきます。

一般的に「心不全」は原因が多様であり、人によって出現する症状や重症度にも差があり、治療方針も様々であることから、パスの導入は困難と考えられていました。当院では医師間の心不全治療に対するスタンスが近いことを背景に、心不全を客観的に評価できる血漿BNPと体重を指標とし、平成16年より入院加療を要する急性心不全患者に重症度別のパスを導入しました。しかし当初はパスに対する意識の低さも相まって、平成18～21年までのパス使用数は、心不全患者172人中6人と悲惨な結果でした。それから平成21年院内パス大会を通して改訂を行い、パスを3つのPhaseに分類し、Phase1の中でも「軽症・中等症・重症」と3つに分類するパスを作成しました。この時、看護観察項目の見直しもを行い、手作業で看護記録や体温表から症状や食事量などを振り返り、心不全に重要な看護観察項目の検討を行いました。その結果、平成21年4月～平成22年11月までのパスの使用率は84%にも達しました。

当院では平成22年12月から電子カルテの導入に際し、心不全パスも電子化となりました。そこで今回、電子パスの使用状況を調査し、改訂を試みました。電子化になり、パス使用患者の抽出は簡単にできました。しかし看護観察項目は、問題点にも挙げたとおり、全項目チェックができていなかったり、基準がはっきりしておらず看護師により症状の捉え方が違うなど様々でした。また、症状の改善にかかった日数も電子カルテを開き手作業で日数を数えるなど時間を要しました。電子化によりパスの使用率は増加する半面、様々な問題点があることも明確になりました。今までは経験的に設定されていた看護観察項目が、今回の改訂を通しエビデンスの明確化につながるということを学ぶことができました。

私はパスに対する知識も浅く、まだまだ勉強している立場です。それにもかかわらず恐れ多くも「最優秀賞」とい



う賞をいただき、いきなり壇上でコメントをとられ何を話したのか覚えていません。ただ言えることは、この賞は、パスを指導していただいた水野先生、原田先生、それにいつもパスに関わってくれている看護師、リハ、薬剤師…など全職種スタッフによる「チーム」の受賞であるということです。また、この受賞で当院のスタッフみんなが、自分たちのパス活動への自信をひとまわり大きくしたことが収穫となりました。改めて、この受賞の重みを自覚し、今後もパスによるチーム医療を通して質の向上に貢献していければと思います。

【日本クリニカルパス学会 第12回学術集会賞 受賞者】

最優秀賞：

熊本機能病院

前高 圭子

優秀賞：

長野市民病院

久保田 豊

伊那中央病院

伊藤 新司

聖路加国際病院

尾関 理恵

総合病院 国保 旭中央病院

佐久間幸枝

前橋赤十字病院

大澤 稔

入賞：

相模原協同病院

河端 将司

南風病院

鮫島 浩司

関西労災病院

三浦 翔太

前橋赤十字病院

吉野 礼子

小諸厚生総合病院

長岡 光

社会保険中央総合病院

中村 矩子

総合病院 国保 旭中央病院

年光 康雄

東京女子医科大学病院

土田由紀子

北斗病院

林 隆裕

松江赤十字病院

江角真由美

総合病院 国保 旭中央病院

唐津 洋志

岩手県立大船渡病院

大津 修

岩手県立中央病院

大久保美智恵

小諸厚生総合病院

小林美津子

in 熊本

第2回エキスパートミーティング に参加して

2012.2.10～11

国保旭中央病院 TQM センター 松永高志

2月10・11日両日、済生会熊本病院で日本クリニカルパス学会第2回エキスパートミーティング「よりよい電子クリニカルパスを作ろう」が開催されました。参加者の一人としてご報告します。

2月10日、羽田空港→福岡空港→博多駅→九州新幹線で熊本駅到着。熊本は曇り、気温3℃、今年はどこも寒い。一緒に出席する当院の年光看護師と車で合流し会場の済生会熊本病院へ。いつも清潔感あふれる病院に感心。やや緊張感漂う雰囲気の中13時開会、オーガナイザーの済生会熊本病院院長副島先生から開会のご挨拶、「よりよい電子クリニカルパス作り」のために電子クリニカルパスの必須要件と推奨要件を明確にし、ベンダーを越えた標準化への土台を討議することが本会の目的と明示され、アウトカム・観察項目の位置づけとBOM (Basic Outcome Master) の理念と構造などについて解説いただきました。続いて今回講師・進行役の黒部市民病院今田先生、川崎医科大学附属病院若宮先生が基調講演「電子クリニカルパスの現状と課題」、「電子クリニカルパスの過去・未来」をされました。電子カルテ・電子パスについて頭が整理できる内容、しかし自分の病院と照らし合わせると忸怩たる思いも。「電子パスとはパスを電子的に運用するツールではない!」、う〜ん現場でこれを理解してもらうのはさついなあ。次いで富士通、SSI、NECのユーザーを代表して井内・河村・町田先生が運用のビデオも含め各病院の電子パスを呈示。皮肉なことに紙パスは電子媒体などから他院のパスを学べますが他院の電子パスが動いているところまで見る機会はほとんどありません、参



考になりました。ここから討論。アウトカムの粒度と観察項目の再考、バリエーションの定義、医療の質にいかんにか反映できるか、現場はついてくるかなど議論は尽きません。電子パスの必須要件、推奨要件、オプション、困っていることなど出席者全員が意見を紙面で提出し1日目は閉会。

その後は済生会熊本病院第84回クリニカルパス大会を見学しました。詳細は省略しますがYahgeeのパスへの応用の勉強になりました。

そして夜は懇親会、詳細は省略(残念)、美味しい料理と楽しい会話のなか熊本の夜は更けていきました。

2月11日、春のように暖かな晴天です。会場では皆さん笑顔で挨拶、懇親会の効果絶大。今日は出席者のアンケート資料から「よりよい電子パス」のための必須要件、推奨要件をまとめる作業です。まず基本的な概念の定義を明確にして用語統一の重要性、BOMによるアウトカム粒度の標準化・簡素化の方向性を確認しました。電子パスの必須・推奨機能の候補としてはアウトカムの設定・修正・追加が柔軟にできる(BOM導入も含め)、システムの互換性・継続性、バリエーション表示と記録の互換性、画面レイアウトの標準化、記録の効率化、アラート機能などがあげられ、電子パスの質向上に向けた理念と現場のニーズの両面から議論されました。侃侃諤諤のなか定刻をオーバー、充実と道半ばの思いを半々にエキスパートミーティングは終了となりました。討議内容は今後日本クリニカルパス学会電子化委員会に引き継がれ「よりよい電子パスづくり」へ発展させていく予定です。オーガナイザーの副島先生、今田先生、若宮先生、事務局の済生会熊本病院の皆様、出席者の皆様お疲れ様でした。

「(PDCAの)A=あしたに向かってクリニカルパス!」





リレーエッセイ 第21回
マックな生活

**社会医療法人蘇西厚生会 松波総合病院 副院長
松波和寿**

僕はビッグマックが大好きだ。最近のテキサスバーガーやラスベガスバーガーなんて目じゃない。こいつとフィレオフィッシュ、ポテトLとコーラLがあれば言うことなし。

違う違う、コンピュータのマック、appleのMacintoshの話でした。オタクではありませんが…現在所有しているマックは家と職場合わせて、現役組ではiMac21、iMac27、MacBook Pro15、MacBook Air13、MacBook Air11、MacBook13。退役組ではPowerBookG4、iBook、

PowerBookG3、iMacG3が座敷童子化している。過去の廃棄組にはClassic、LCII、Quadra、Centris660AV、II si、DuoDock、PowerMac8100、PowerBook100、PowerBook140、PowerBook180c、PowerBook Duo230など、記憶が定かでないところもあるがざっとこれぐらい（興味のない方には何のことやらわからないと思います、すみません）。どの機種も当時の最先端の機種であり、給料の多くはアップルコンピューターへのお布施と消えていった。さらにはiPadが2台にiPod touch3世代、iPod nano 2台、当然スマートフォンはiPhoneである。

もっぱらiPhoneで日常の参照系は事足りる。朝iPhoneに起こされ、5つのメールアカウントをチェックし、カレンダーで今日の予定を把握、リマインダーが嵐のごとく立ち上がる。トイレでは最新のニュースとTwitterとFacebookをチェックする。新聞は読みません。テレビの朝ニュースで流れているのはほぼ知っている情報ばかり。最も早く生情報を得る手段がNetです。Steve Jobsが亡くなった報もどの媒体よりも早かった。地震速報も一番早い。もはや1m以内にないと落ち着かないiP依存症が出ている。パス学会の抄録集もこれで十分なのだ。書類もすべてスキャンしてEvernoteで見れちゃう。

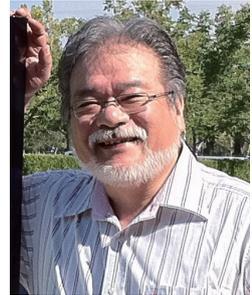
病院の端末は当然のごとくWindowsである。アプリが一緒であればできることは一緒なんだがなんか違うんですよ。マックって時々機嫌が悪くなるんですよ。反応がいつもと違うとか砂時計がやたら出てきたりして、元気がないというかご機嫌斜めなんだけど一生懸命さが伝わるんです。でそのまま使い続けるとフリーズです。「Command」+「Control」

と電源ボタンを同時に押して、強制再起動。「Option」+「Command」+「P」+「R」でPRAMクリア、起動音を数回ならしてどうのこうの、知らないうちに身に付いてるものです。儀式みたいに行なってますね。起動音も実に心地良くモデルごとに微妙に違うんですね。あと、泣いた顔のMacアイコンが出てきたり、車の衝突音が聞こえたりして、マックにしてみればやばい状態なのですが、遭遇できたことのほうが嬉しかったりして。最近のLionマックは安定していつまらん。オタクではありません。これが普通のマックユーザーです。たぶん。

なぜマックがいいか？ユーザーインターフェースの出来です。専門知識がなくても使える。直感的な操作ができる。あるべきところにあるべきボタンがあり、指を広げれば拡大、指を上へスワイプすれば画面も動く。医師にマックユーザーが多いのは直感が鋭いからか。なんとか使いちゃうのはすごいわけで、裏でCPUがどうなってるのが気にしない。ユーザーが楽しく使えて、良い体験ができる、それが最高の評価です。所詮機械なので壊れるのはしょうがないですが。

おっ、Twitterにダイレクトメッセージが来たことをiPhoneが知らせてくれた、前回のエッセイの吉田先生からだ。あれ、メガネどこ行った？

次はトヨタ記念病院の岡本先生をお願いします。



松波和寿先生

事務局より

第13回日本クリニカルパス学会学術集会 テーマ：『実務と学問の融合～企画と運営を通じた学問への誘い～』

会期：平成24年12月7日(金)、8日(土)

会場：岡山コンベンションセンター（岡山市北区駅元町14番1号）

岡山市デジタルミュージアム（岡山市北区駅元町15番1号）

参加登録募集期間：平成23年5月7日(月)～11月9日(金)（予定）

演題募集期間：平成24年6月5日(火)～8月23日(木)（予定）

プログラム：特別講演、教育講演、シンポジウム、

パネルディスカッション、宿題報告、

一般講演、ランチョンセミナー、パス展示など

※学術集会の詳細に関しては、

<http://www.med.gakkai.org/jscp13> をご覧ください。

2012年度 クリニカルパス教育セミナー テーマ：『これでわかる! できる! クリニカルパス ～基本と実践～2012』

会期：2012年7月21日(土) 13:00～17:00

東京会場

会場：学術総合センター 一橋記念講堂

(東京都千代田区一ツ橋2-1-2 学術総合センター2階)

会期：2012年8月4日(土) 13:00～17:00

大阪会場

会場：千里ライフサイエンスセンター ライフホール

(豊中市新千里東町1-4-2 千里ライフサイエンスセンター5階)

※参加申込：学会ホームページ(<http://www.jscp.gr.jp>)からオンラインにて登録してください。

※「セミナー終了証」を発行いたします。